

研究課題名	大腸癌肝転移および胆道癌に対する肝切除における肝実質温存指標（Parenchyma Sparing Factor: PSF）と術後成績に関する国際共同研究
研究期間	2026 年 7 月 22 日 ～ 2031 年 12 月 31 日
研究の対象	2017 年 1 月 1 日～2023 年 12 月 31 日の期間に広島大学病院 消化器外科・移植外科で転移性肝癌もしくは胆道癌に対して初回の肝切除を受けられた方の中で、術前および術後約 1 週間以内に CT 検査を実施した方
研究の目的・方法	研究目的：大腸癌肝転移および胆道癌（主として肝門部領域胆管癌）に対する肝切除について、腫瘍量と切除量の関係を定量的に評価し、肝実質温存の程度が術後成績に与える影響を明らかにすることです。 研究の方法：研究対象者の診療録（カルテ）内にあるデータを使用します。特に術前と術後 CT 画像を用いたボリユームトリー解析により腫瘍体積、切除肝体積を算出してその比を Parenchyma Sparing Factor (PSF) と定義し、PSF と短期および長期成績との関連を解析します。本研究は、国際共同研究として広島大学病院と Asklepios Hospital Barmbek (Hamburg, ドイツ) の症例を合算して実施します。
研究に用いる試料・情報の種類	試料：本研究のための取得は行いません 情報：年齢、性別、身体所見、病歴、血液検査結果、画像検査結果、手術記録、病理検査結果等 試料・情報の管理責任者： 広島大学大学院医系科学研究科 消化器・移植外科学 大段秀樹
利用または提供を開始する予定日	2026 年 7 月 22 日（実施許可日以降）
個人情報の保護	得られた試料・情報から氏名・生年月日・住所等の特定の個人を識別できる記述を削除し、代わりに新しく研究用の番号を付けて取り扱います。個人と連結させるための対応表は、各機関の研究責任者が厳重に管理し他機関へ提供することはありません。
外部への試料・情報の提供	日本国外の共同研究施設と情報および解析結果をクラウドやメールを用いて共有します
研究組織	本学の研究責任者（研究代表者） 広島大学大学院医系科学研究科 消化器・移植外科学 教授 大段秀樹 研究機関の長：広島大学理事 田中純子 共同研究機関 Asklepios Hospital Barmbek（ドイツ）

	Department of Surgery, Chief doctor, Karl Oldhafer
その他	
研究への利用を辞退する場合の連絡先・お問合せ先	研究に試料・情報が用いられることについて、研究の対象となる方もしくはその代諾者の方にご了承いただけない場合は、研究対象としませんので下記の連絡先までお申し出ください。お申し出による不利益が生じることはありません。ただし、すでにこの研究の結果が論文などで公表されている場合には、提供していただいた情報や試料に基づくデータを結果から取り除くことが出来ない場合があります。なお、公表される結果には、特定の個人が識別できる情報は含まれません。 また、本研究に関するご質問等あれば下記連絡先までお問い合わせください。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報等の保護や研究の独創性確保に支障がない範囲内で、研究計画書および関連書類を閲覧することができますので、お申し出ください。 広島大学大学院医系科学研究科 消化器外科・移植外科学 担当者：本明慈彦 〒734-8551 広島県広島市南区霞 1-2-3 電話番号：082-257-5222